

会 議 議 事 録 (要旨)

1 会議名	平成 29 年度 第 1 回長岡市地域公共交通協議会
2 開催日時	平成 29 年 7 月 21 日(金曜日) 午前 10 時 00 分から午後 12 時 00 分
3 開催場所	フェニックス大手イースト まちなかキャンパス 3 階 301 会議室
4 出席者名	<p>【協議会】 大塚会長、佐野副会長、天野委員、鈴木委員、松本委員(代理：栗原様)、波塚委員、小山委員(代理：谷畑様)、真島委員、大橋委員、中山委員、高橋(智)委員(代理：波多野様)、小松委員、中林委員、小林委員</p> <p>【随行員】 越後交通㈱乗合バス課 中山課長 新潟県警察本部交通部交通規制課 中沢係長</p> <p>【欠席】 前川委員、高橋清吉委員</p> <p>【事務局】 山本交通政策課長 外 3 名</p>
5 議題	(1) 平成 28 年度事業報告及び平成 28 年度歳入歳出決算報告 (2) 長岡市地域交通協議会規約の改正
6 報告事項	(1) 生活交通の利用状況について (2) 平成 29 年度事業内容について (3) 平成 29 年度交通関連事業について
7 協議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題(1)～(2)について承認された。
8 次回の予定	次回(第 2 回)の協議会は 2 月頃を予定
9 審議の内容	<p>【その他】</p> <p>事務局 役員の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 副会長は規約に則って学識経験者である佐野教授。 ・ 監査員は昨年度に引続き、大橋委員と小林委員。 <p>(承認された)</p> <p>【議題】</p> <p>事務局 議題 (1) 平成 28 年度事業報告及び平成 28 年度歳入歳出決算報告</p> <p>資料 1～5 ページに基づき、議題を説明。</p> <p>委員 ・ 会計監査を行い、歳入・歳出に関する帳簿並びに書類等は、いずれも適正に処理</p>

	<p>されていたことを確認した。</p> <p>(質疑応答なし)</p> <p>会長 ・ 議題(1)を承認してよいか。</p> <p>(承認された)</p>
【議題】	議題 (2) 長岡市地域交通協議会規約の改正
事務局	<p>資料 6～10 ページに基づき、議題を説明。</p> <p>国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所の組織改正によるもので委員の役職に合わせた変更</p> <p>(質疑応答なし)</p>
会長	<p>・ 議題(2)を承認してよいか。</p> <p>(承認された)</p>
【報告事項】	報告事項 (1) 生活交通の利用状況について
事務局	<p>資料 11～16 ページに基づき、小国地域、川口地域及び山古志地域の運行ルート、コミュニティバスの利用状況を説明</p> <p>(以下、質疑応答)</p>
委員	<p>・ 利用者が増加した理由としてデマンド方式の浸透や運転手の営業活動が挙げられているが、具体的にはどのようなことが挙げられるか。</p>
事務局	<p>・ 小国地域では、デマンドタクシーの予約の仕方の案内ビラを配布して周知を図ったり、オペレーター等へ苦情が入った場合、市から NPO を通じて苦情内容を知らせたりしたことなどが挙げられる。大貝線でも、効率化を考えていく。</p> <p>・ 川口地域は、利用状況が好調であるため、当面は推移を見守る。</p> <p>・ 山古志地域は、全路線で利用者が減少しており、どこまで効率化が図れるかが課題である。支所や NPO と連携しながら、増便やデマンド化など検討を進めていく。</p>
副会長	<p>・ 路線バスとコミュニティバスをどのようにつなげるか、どのように役割分担して</p>

	<p>いくかが重要であり、トータルでコストが最も低くなるように、越後交通とコミュニティバスと合わせて効率化を図り、便利なものにできればよい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、勉強会を行うなど、越後交通との連携を図っているので、引き続き進めていきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・山古志地域の生活交通については、工夫が必要であると思う。
【報告事項】	報告事項 (2) 平成 29 年度事業内容について
事務局	<p>資料 17～18 ページに基づき、内容を説明。</p> <p>(以下、質疑応答)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3月は冬期間であるが、継続運行となった場合は両地区とも運行するのか。 ・三条市のデマンドタクシー「ひめさゆり」の鬼木集会所とはどういう関係か。 ・広報をしっかりと行うことができるかが重要となってくる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の残高にもよるが、できれば2～3月は両地区で運行したいと考えている。 ・三条市が運行しているデマンドタクシー「ひめさゆり」の停留所である鬼木集会所は、三沼・西所線の運行区域に近接しており、三条市方面への移動ニーズに対応する停留所の例として挙げている。 ・長岡ハイヤー協会からも運行持続のアドバイスを頂きながら検討を進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予算が早くなくなるということは、利用者が多く需要があるということであると思うが、どのタイミングで将来の見通しを立てるのか。 ・他の社会実験と同様に、実験として一度運行し、その後本格的に運行することは可能なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・3月までで一旦運行は終了し、検証結果を解析しながら地域と検討を行い、将来の見通しを立てていく。今のところ、その後の本格運行はまだ決まっていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・道路運送法上の21条運行は最長1年間有効であり、そのあと本格運行することは可能である。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の実証実験は、長岡市が主導となって予算の範囲内で行うが、本格運行に向けては、地域が主体となって運行方法等を実証実験の結果から検討していくということである。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運行について、パティオ新潟(見附市)にいくということで見附市との調整はできているか。 ・予約先は長岡市ハイヤー協会がいいか。 ・2つの路線で運行の開始月が異なるが理由があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・見附市及びパティオ新潟の指定管理者のどちらからも了解を得ている。さらにパティオ新潟にある見附市のコミュニティバスの待合所を兼用させていただくことに対しても了解を得ている。 ・予約先は長岡市ハイヤー協会としているが、代表者は相互タクシー株式会社とし、各社への配車を依頼する形としている。 ・仮に両地区で運行すると仮定すると、予算の関係で3か月程度の運行となってしまい冬期が含まれないため、運行開始月をずらした。また、三沼・西所線が先に始まることで、次に運行が始まる中通線が利用しやすくなるのではないかとということも考えられる。冬期は2地区同時での運行となる。 ・当初は三沼・西所線を月曜日・水曜日・金曜日、中通線を火曜日・木曜日に運行することを考えていたが、地元と協議を行った結果、月曜日と金曜日に通院する方が多く、両路線で月曜日と金曜日に運行してほしいとの希望が出た。そのため、両地区とも月曜日・水曜日・金曜日に運行することを決定した中で、このような運行日程となった。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう状況を想定して3か月間しか運行できないとしているのか。 ・実際に本格運行が開始された場合の運賃が300円になっていたら、客数が減るのではないか。 ・冬期に運行したいのであれば、9月から運行を開始せずとも10月、11月ごろから3か月間行えばよいのではないか。 ・「ひめさゆり」と接続することに関して、三条市はどのような反応をしたのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃を当てにせず、1日4便がすべて運行された場合、1路線運行だと6か月、2路線運行だと3か月で予算が尽きるという試算となっている。 ・実証実験期間中、利用者に、「本格運行となれば運賃が上がるが利用したいか」というような内容のアンケートを行い、その結果を踏まえて検討する。いろいろな声を取り入れる為に、実験の段階でまずは乗ってもらうことを考えて、100円という運賃設定にした。 ・2路線の運行時期をずらすことで6か月間運行することができるので、9月運行開始のこの日程で実施する。欠便が出るのが想定されるので、その分を2～3月の運行に充てられるのではないかと考えている。 ・「ひめさゆり」は事前登録なしで誰でも乗車できるという観点で、三条市と直接細

	<p>かい協議は行っていない。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・三条市にも、実証実験を行うことで利用者が乗継ぐ可能性があることを伝えておくべきである。 ・小国のデマンド化のように、予約方法などの周知を行った結果、デマンド化が浸透し、利用者が増加したという成果があるので、運行までの期間に、情報を周知することが重要である。
【報告事項】	報告事項 (3) 平成 29 年度交通関連事業について
事務局	<p>資料 19 ページに基づき、内容を説明。</p> <p>(以下、質疑応答)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「長岡市地域公共交通網形成計画に基づき、」と記載してあるが、計画には施策について「適宜実施」という表現が多い。平成 29 年度は計画内のどの施策を行うことになっているのか。 ・また、平成 29 年度に実施する各種施策の項目それぞれは、計画内のどの施策に当てはまるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場整備(前川駅)は、パークアンドライド用駐車場整備にあたる。 ・モビリティマネジメントの推進は、意識啓発活動の推進にあたる。 ・公共交通の利用環境整備(システム運用)は、わかりやすい情報提供にあたる。 ・中之島地域の生活交通(乗合タクシー)等は、公共交通空白地における公共交通の確保にあたる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の施策と平成 29 年度に行う事業との関係がわかりやすい資料で示してほしい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・どの事業が網計画のどの施策に該当するのか、分かりやすい形で資料の作成を行っていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンステップバスの導入補助について、引き続き継続してほしい。 ・福祉タクシーの導入について、市からも補助が出るといい。 ・また、東京五輪などを見据えて、国として観光地にユニバーサルデザインのタクシーを導入する取組を検討しており、長岡市における公共交通の分野でも、観光振興のためにユニバーサルデザインのタクシー導入のような方策を検討していただけるとありがたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような動きがあるという情報は把握している。今後、新たな動きがあれば報告したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉タクシーについては、福祉関連の部署と連携して進めていく。 ・インバウンドの対策についても、観光関連の部署との連携を進めながら、対策を取組んでいく。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対策のためにユニバーサルタクシーを入れるという動きが国策としてあるということで、それらの動きや制度などを把握して自治体でも対策を進めていかななくてはならない。
【その他】	情報提供等
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の平成 28 年の交通死亡事故の特徴は、飲酒運転の事故が全体の 1.5% (71 件) であり、新潟県は全国ワースト 2 位である。 ・免許センター長岡支所が日曜窓口を開設した結果、5 月 7 日以降 11 回開設し、合計 1667 件(内訳：免許更新が 1290 件、住所変更等が 265 件、免許返納が 15 件)の利用があった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス(村松回帰場～高龍神社)の利用状況(平成 28 年 11 月～平成 29 年 6 月)は、乗車人数が月平均 260 名程度であった。 ・平日の乗客は地元の方が多く、朝夕は乗客のうち 6～7 名が小学生である。土日は、観光客の乗車が見込まれていたが、観光客らしい人の利用数はあまり伸びていない。観光協会との連携を図り、宿泊サービス等の対策に取り組む。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納が話題になるが、移動の足がなくなることへの不安があるので、一時的な支援でなく、その後も続く補助があるといい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の補助制度は、限定的なものなので、なるべく移動の足がなくならないような制度の検討していく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・立川総合病院に通院した際、病院の利用者が、病院にバスがあることがうれしいと言っていた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・免許更新の際の認知症検査で失格となってしまった場合は、免許返納者にならないことが気になる。 ・埼玉県の行田市では、免許返納者に対して継続的な割引サービスを行っている。 ・免許の返納を推進することは良いが、移動の足のサポートが必要である。

副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・公助だけではなく、共助も必要である。自動車はコストがかかる。外出が少なければタクシーの方が安い。そうすると乗合タクシーや、近所の送迎支援など、地域での助け合いも必要である。 ・ 協議会の議題と報告の境目は何か。事業内容などは報告ではなくて議題の方がよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規約の改正など何か決定しなくてはならないことを議題としている。今後は、報告ではなく議題とするか検討する。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員から意見をもらうので、議題としても不自然ではなく、改めた方がよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供として、山古志地域で国交省の自動運転の実証実験に応募しており、7月中に選定箇所が決定される。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長岡市もできるだけ経費のかからない移動手段を将来的に見据えていきたい。 <p style="text-align: right;">(以上)</p>

■協議会の様子

